

麦

必須！適期の赤かび病防除

赤かび病に感染すると不稔やくず粒が増加し減収します。
更に、赤かび病の病原菌が生産するかび毒（DON）は
人体にも悪影響を及ぼすため基準値を超過すると出荷が
できず大きな損害に繋がる恐れがあります。



○感染・拡大しやすい条件

出穂期以降の平均気温が18～20℃以上、高湿度、降雨

感染しやすい日が近年増加傾向にあるため

1回みの薬剤防除では対応できなくなっています。



○防除適期 **予防散布が重要です！**

1回目防除…開花始め～開花期

2回目防除…1回目防除の7～10日後

開花始めを確認し

1回目の防除をする

※穂の中央部から上下に咲いていきます

○防除作業の流れ

①防除日を
計画する

②病原菌の侵入を
抑える

③病原菌の拡大を
抑える

出穂期

約7日後

1回目防除

開花始め～開花期

(約3日間)

7～10日後

2回目
防除

○薬剤の選択

・1回目の防除は、病原菌の侵入を抑える効果のある薬剤を

2回目の防除は、侵入した菌の拡大を抑えDON濃度を低減する効果のある
薬剤を選択しましょう。

・2回目の防除では1回目の防除と異なるFRACコードの薬剤を使用しましょう。

ご相談・お問合せ

桑名地域農業改良普及センター水田担当（電話：0594-24-3642）